

土方克彦さんを偲ぶ

2019年7月16日渡邊義明

土方克彦さんは、小生と同年・1964年同志社大学入学です。

土方克彦さんは、同志社大学学生運動の拠点・此春寮生で生協組織部員でした。

小生は、64年4月京大文学入学・京大生協組織部員、7月社会主義学生同盟京大支部加盟、12月京大同学会中央執行委員です。

1965年7月に同学会・京大生協選挙で敗北し、同志社大学も翌年生協を失いました。

1968.07-69.06の共産主義者同盟関西地方委員会時代に再会します。

小生は1968.7関西地方委員会学生対策部長→1968.9大阪南地区委員会CAP・関西地方委員会反戦フラクション—関西地区反戦連絡会議の裏—CAP→1969.02関西地方委員会青年対策部長・1969.04関西地方委員会副議長)でしたが、土方克彦さんは関西地方委員会の阪神地区に所属し、坂井與直さん・高幣真公さんとともに戦旗関西支局のメンバーでした。

1969.7.6事件から共産主義者同盟は分裂し解体していききましたが、小生は7/6直前の6/1共産主義者同盟を脱盟します。

土方克彦さんは、赤軍派の結成に伴う同志社大のフラク的分裂で一番苦勞されたと思いますが、よく活動を維持してこられました。

小生(荒川三里塚闘争に連帯する会・三里塚闘争に連帯する会東京神奈川連絡会議世話人)等が結成した1974-1985三里塚闘争に連帯する会・関西三里塚闘争と連帯する会でも阪神連帯する会神戸連絡会議を作って活動されました。

その後、全国労働運動活動者会議・労働情報に参加されました。

土方克彦さんは、関西ブントが展開してきた運動でいつの時代もともに活動してきた盟友です。謹んで、哀悼の意を捧げます。

土方克彦君を偲ぶ

高原浩之(2019.07.26)

土方君と身近に活動したのは、私の京都・関西時代、1967年10月・11月の2つの羽田闘争と1968年1月のエンブラ佐世保現地闘争までの3年間くらいであったと思います。はじめは京都府学連、後にはいわゆる三派全学連の関西における運動でした。私は、いわゆる関西ブンド、そして第二次ブンドの関西における学生運動の責任者でした。土方君は、最大拠点であった同志社のブンド・社学同の中心的な活動家でした。少し太めの体で、精力的に動き回っていたのを覚えています。

その後、私は上京し、第二次ブンドの中央で学生運動の責任者になり、土方君との直接的なつながりはなくなりましたが、それでも全国動員の時、関西の部隊の中に見た、相変わらず元気な姿を記憶しています。

それからは、深刻なことになりました。私が結成に参加した赤軍派は、7・6事件を起こし、第二次ブンドを崩壊させてしまいました。振り返って言えば、赤軍派の武装蜂

起・革命戦争の方針は、人民に依拠せず、情勢にも合わず、この点で、決定的に誤っていました。大菩薩で敗北した後も、誤った方針にしがみつき続け、とうとう連合赤軍事件を起こしてしまいました。人民闘争と革命運動に壊滅的な損害を与えてしまいました。

土方君はブンド分裂の中で赤軍派と対立したと聞いています。赤軍派は、土方君だけではなく、第二次ブンドの多くの同志、指導を受けた先輩、指導した後輩、それに同輩、実に多くの人びとに大変に心痛む結果をもたらしてしまいました。申し訳なく思っています。

私は赤軍派の政治局員でした。だから、全てに責任があり、謝罪します。私にとって赤軍派は後悔と贖罪です。どんなに後悔しても過去はもうやり直せない。しかし、過去を教訓として現在と将来に生かすことはできる。

70年闘争を闘った多くの人びとが、その後、良い体質を堅持し、悪い体質を清算し、人民大衆と結合して、革命運動をやり直し継続してきました。土方君もそうでした。

1970年代には、日本の新左翼運動が、それだけでなく、もっと大きくロシア革命後の国際共産主義運動が、昇り詰めて同時に破綻しました。明らかに世界史的な大転換点でした。ここのところを、社会主義・共産主義の実践とマルクス・レーニン主義の理論を、全分野に及ぶ広さと根底に迫る深さで総括する。これはすでに50年、世紀を越えてもまだ継続していると思います。世界的な歴史を画する作業でしょう。

70年闘争を共に闘ったブンドの同志たちも故人が増えています。不幸にも若くして亡くなった人もいますが、やはり、高齢の域に達した最近、亡くなる人が増えています。寿命は如何ともし難い。しかし、命続く限り、私も、歴史的な作業に、その微細な一部分ですが、加わりたいと考えています。そのことを、土方君に、そして故人となった同志たちに、誓いたいと思います。(おわり)